

報告

大学共通テスト導入の背景と現状 (2018 年度関東支部大会 基調講演 報告)

大杉 住子

2018 年 6 月 17 日に明治大学で開催された関東支部大会での講演の資料を掲載します。
この資料は講演者の承諾を得て、関東支部大会予稿集から転載したものです。

【講演者】

大杉 住子（独立行政法人 大学入試センター審議役）

【プロフィール】

1997 年、文部省（現・文部科学省）入省。幼児教育、大学教育、キャリア教育など教育分野を中心に担当し、ユネスコ教育局アソシエイトエキスパート、愛媛県教育委員会保健スポーツ課長、在イタリア日本国大使館文化科学アタッシェなども歴任。2014 年から文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長として学習指導要領改訂の中核を担い、2017 年 4 月より現職。2020 年度から実施される「大学入学共通テスト」の作問に関する業務に携わっている。

平成 30 年 1 月

独立行政法人大学入試センター

平成 30 年 2 月に実施する大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）

（外国語科「英語」）の趣旨について

1. 大学入学共通テストの実施と試行調査（プレテスト）（外国語科「英語」）の位置付け

（1）高大接続改革等の進展

- 長年、高校と大学とが連携して一体的に改善を図ることが課題とされてきた高大接続改革について、現在、例えば次のような具体的な改善策が、関係者の努力と連携により着実に進められているところです。

〔大学教育の改善に向けて〕 三つの方針（①卒業認定・学位授与方針、②教育課程の編成・実施方針、③入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー））に基づく大学教育の質的転換

〔高校教育の改善に向けて〕 高等学校学習指導要領の改訂を見据えた教育課程の見直し、学習・指導方法の改善

〔大学入学者選抜の改善に向けて〕 大学入学共通テストの導入、アドミッション・ポリシーに基づく個別大学の入学者選抜の改革

- これらの改善は、高校あるいは大学において「何をどのように学び、何ができるようになるのか」を明確にしながらそれぞれの教育の充実を図るとともに、接続段階で実施される入学者選抜を通じてどのような学習の成果を評価するのかを明確にすることで、高校と大学における学びの効果的な接続を図るために行われているものです。
- なお、英語教育については、英語を使って何ができるようになるかを重視し、小・中・高等学校を通じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に育成することを目指した取組が進められています。高等学校においては、特に「話すこと」「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないこと、生徒が習得した知識や経験を生かしてコミュニケーションを行う場面等に応じて適切に表現することなどに課題があることを踏まえつつ、言語活動の改善・充実などが目指されているところです。
 こうした英語教育改革の方向性を踏まえ、昨年7月に文部科学省が公表した「大学入学共通テスト実施方針」では、大学入学者選抜においても、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」をバランスよく評価するため、大学入学共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用することが示されています。
- 大学入学共通テストについても、このテストのみの在り方ではなく、こうした改革の全体像の中でその意義や役割を捉えていただければと思います。

(2) 大学入学共通テストの準備状況（外国語科に関連する事項について）

- 大学入試センター（以下「センター」という。）では、「大学入学共通テスト実施方針」に基づき、外国語科に関連する事項として、以下のような準備を進めています。

①「大学入試英語成績提供システム」の構築に向けた準備

- ・ 大学入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用を支援するため、センターに「大学入試英語成績提供システム」を設け、一定の参加要件を満たすことが確認された資格・検定試験について、受検生から申出のあった回の成績を一元的に集約し、要請のあった大学等に対して提供することとしています。
- ・ 昨年11月に参加要件を策定・公表し、12月まで参加申込受付を行いました（参加要件の詳細や参加申込状況については、センターのHPを御参照ください）。今後、本年3月末を目途に、申込のあった資格・検定試験が参加要件を満たしているかの確認結果を公表する予定であり、現在、センターに設置した「大学入試英語成績提供システム運営委員会」において専門的見地からの検討を行っているところです。また、システムの整備等に向けた準備も進めています。

②センターが作問する外国語科「英語」の試験の在り方についての検証

- ・ 「大学入学共通テスト実施方針」では、制度の大幅な変更による受検者・高校・大学への影響を考慮し、資格・検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、2023年度まではセンターが作問する外国語科「英語」の試験を実施し、各大学の判断でこのセンターが作問する試験と「大学入試英語成績提供システム」に参加する資格・検定試験のいずれか又は双方を選択利用することを可能とするとされています。その際、センターが作問する試験の出題内容や配点等のバランスについても、必要な検討を行うと示されたところです。
- ・ こうした方針を踏まえ、センターが作問する試験の在り方についての検証に資するため、本試行調査

(プレテスト¹。本資料では以下単に「試行調査」という。)を実施させていただくこととしました。

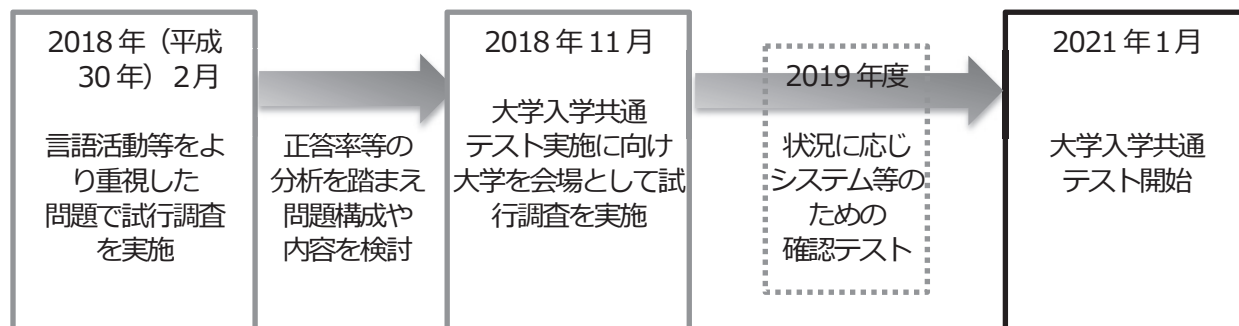
③「英語」以外の外国語科目について

- ・ 外国語科の「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」の試験については、「大学入学共通テスト実施方針」において、センターが作問する試験を実施する方向性が示されたところです。
- ・ 出題方法等については「英語」に準ずることとされており、今回の試行調査を経て得られた作問の方向性に準じて検討を進めていきます。

(3) 大学入学共通テストと試行調査の関係

- 新しいテストの問題構成や内容等を決定していくにあたっては、あらかじめ、英語教育改革の方向性を踏まえつつ、実際のコミュニケーションの場面等における言語活動等をより重視した新たなねらいの問題を出題した場合の正答率や解答の傾向等を分析しておく必要があります。こうした分析を行うためには、地域バランス等にも配慮しながら分析に必要な規模のデータを集める必要があるため、今回、全国の高校等にご協力いただき実施するものです。
- 試行調査で出題される問題は、あくまでも検証のためのものであり、今回の問題構成や内容が必ずしもそのまま2020年度からの大学入学共通テストに受け継がれるものではないという点にご留意ください。実際の大学入学共通テストの問題構成や内容等がどのようなものになるかは、今回の試行調査の結果等を踏まえ今後さらに検討されるものです。

【イメージ】



(4) 現在の高校生にとっての試行調査の意義

- 大学共通テストが開始される2021年1月は今の高校生にとってまだ先の話かもしれませんが、各大学の入学者選抜では、既に新たなねらいの問題の導入も進み始めています。今回の試行調査は、今の高校生にとっても、言語活動等の成果を問うことをより重視した問題で、自分の力を試すことができるものです。
- 生徒には、緊張せず、腕試しのつもりで挑戦してみるよう促してください。

¹ 「大学入学共通テスト実施方針」で「プレテスト」と表記されているが、よりその趣旨・性格が明確になるよう「試行調査(プレテスト)」の名称に改めたところ。

(5) 試行調査の実施期日・科目

- 今回の試行調査の実施期日等は別添の通りです。

2. 試行調査の問題のねらいと形式

(1) 問題のねらい

- 大学入学共通テストにおいては、高校教育を通じて、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力、判断力、表現力がどの程度身に付いたかを問うことをねらいとしています。これを踏まえて、本年度実施する大学入学共通テストの導入に資する試行調査では、高等学校学習指導要領において育成を目指す資質・能力に準拠し、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとしています。
- 外国語科「英語」の試行調査においては、英語の資格・検定試験活用に関する方針も踏まえながら、「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、筆記（リーディング。マーク式）とリスニング（マーク式）を課すこととします。
いずれにおいても、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、A1 から B1 までの問題を組み合わせ出題します。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な場面、目的、状況の設定を重視します。
- 筆記（リーディング）については、テキストを読み事実や意見等を整理する力、テキストの構成を理解する力、テキストの内容を理解して要約する力等を問うことをねらいとし、問題の構成や内容について検証を行います。なお、英語の資格・検定試験の活用を通じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な評価がなされる方針であることを踏まえ、筆記（リーディング）の問題では「読むこと」の力を把握することを目的とし、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題されません。
- リスニングについては、複数の情報を比較して判断する力や、議論を聞いて要点を把握する力等を問うことをねらいとし、問題の構成や内容について検証を行います。音声については、アメリカ英語以外の読み上げ（イギリス人や英語を母語としない人による読み上げ）も行います。また、資格・検定試験における英語のリスニング試験における一般的な在り方を踏まえ、読み上げ回数についても検証（受検者を二つのグループに分け、全て2回読みのもので実施するグループと1回読みと2回読みが混在するもので実施するグループを比較）を行います。
- 今回の試行調査の問題はあくまでも検証のためのものであり、今回の問題構成や内容が必ずしもそのまま2020年度からの大学入学共通テストに受け継がれるものではないという点にご留意ください。

(2) 新たな出題形式

- 今回の試行調査では新たな出題形式として、当てはまる選択肢を全て選択させる問題なども出題されます。

3. 実施後の問題冊子の扱いや成績提供等について

- 今回の試行調査の問題内容は、全体の正答率等の速報値とともに3月中旬に公表予定です。試行試験実施後は各校で問題冊子を回収し、公表まで校内で厳重に保管してください。生徒には、公表前は問題の内容について他校の生徒に伝えたり SNS で情報を流したりすることのないよう、指導をお願いします。
- 個人の成績等については、年度内のなるべく早い時期にお送りさせていただきます。今回は試行調査であり配点は行っておりませんので、問題ごとの正誤や正答率等を成績として送らせていただくことになる予定です。なお、個人や学校ごとの成績は公表しません。
- 本調査の結果等については、センター及びセンターと共同研究を行う公的機関等において、大学入学共通テストに関する調査・研究の資料として利用されます。調査・研究結果の発表に際しては個人が特定できないように処理されます。
- その他、試行調査の実施上の留意点等については、別途配布される実施マニュアルや監督マニュアルをご覧ください。

【平成30年2月試行調査（プレテスト）「英語」の実施概要】

平成30年2月試行調査（プレテスト）「英語」の実施概要	
英語で求められる「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、筆記（リーディング）については、必要な情報を整理したりする力や談話構成を理解する力、要約する力等を、リスニングについては、複数の情報を聞いて判断したり、議論を聞いて内容を把握したりする力等を評価することをねらいとした作問を工夫し、問題の構成や数、内容、音声回数等について検証を行う。	
①実施期日	・平成30年2月13日～3月3日内で試行調査協力校が任意の日時で実施
②実施科目	・英語（筆記（リーディング）及びリスニング）（マーク式）
③実施規模	・6,700人程度
④選考方針	◎大学入試センター試験の設置者別受験者数及び1校当たりの参加人数の原則（40人程度）踏まえつつ、 ・公立学校については、教育委員会に推薦依頼 ・私立学校及び国立学校については、公募方式によるランダム抽選
⑤試験時間	・筆記（リーディング）80分、リスニング30分（リスニングはAとBの2グループに分けて実施）を予定 ・A⇒全ての問題で問題音声は2回流れる方式 ・B⇒問題音声は1回流れる問題と、2回流れる問題が混在する方式 ・このほか、アンケート調査を実施予定
⑥実施会場	・各協力校
⑦受検対象者	・高等学校等の2年生を対象
※同時期（2月中）に「受験上の配慮（点字問題）」に関する試行調査を実施。	

別添

受付日 2018年6月17日、受理日 2018年9月15日